

整理番号 2024M-009  
補助事業名 2024年度 ICT社会における安全安心確保に関する補助事業  
補助事業者名 一般社団法人日本教育情報化振興会

## 1 補助事業の概要

### (1) 事業の目的

教育現場のICT安全安心対策研究実施のため2つのWGを設け、「情報モラル指導充実のためのWG」「情報活用能力（コミュニケーション力）育成WG」を二本柱として活動する。

#### ① 情報モラル指導充実のためのWG

- ・ 専門家、有識者約9名からなる委員会の設置
- ・ 教育委員会等の要望に添った情報モラルセミナーの開催、研修テキストの作成実施
- ・ 「GIGAスクール構想」の1人1台PC環境と新学習指導要領に合わせた新規教材の作成  
新規動画10本・既存動画改版3本等、委員がそれぞれシナリオを作成し教材開発を実施
- ・ 2024年度は広域の地域セミナーの企画を行い、滋賀県3市（長浜市、米原市、彦根市）合同の大規模セミナーを実施

#### ② 情報活用能力（コミュニケーション力）育成WG

- ・ 専門家、有識者15名からなる委員会の設置
- ・ コミュニケーション力育成のための研修は、次の形式で開催した。
  - － 研修は大規模なイベント（関西教育ICT展・JAET全国大会東京都港区大会・教育DX推進フォーラム）や東日本地区の宮城県と西日本地区の富山県の教育委員会、大学、協賛企業等とタイアップして、教員に招集をかけ参加を募集
- ・ 本事業で開発した「情報活用能力ベーシック」を全国の教育関係者に普及啓蒙するために、「情報活用能力ベーシック」を理解／習得する校内研修のメニュー／パッケージを開発した。

### (2) 実施内容

教育現場のICT安全安心対策検討委員会にそれぞれのワーキンググループ長を委員とした委員会を置き、そこに下記の2つのワーキンググループを設置し、それぞれの研究方法によりICTの安全安心活用について研究を実施している。

#### ① 「ネット社会の歩き方」情報モラルセミナー事業

<https://www.japet.or.jp/activities/info-ut-ability-dev/info-moral-seminar/>

地域の指導的な立場の教員に対し情報モラルが指導できるよう指導者育成を実施。主に情報モラルやセキュリティに関するセミナーを実施できる指導者を養成している。その指導教材としてセミナーで使用した教材・情報を提供している。さらに、家庭等で

も「情報モラル」が親子のコミュニケーションの題材となるような新たな事例への対応を盛り込んだコンテンツ情報等の提供を行っている。

### ■ ネット社会の歩き方教材

<https://www.japet.or.jp/net-walk/>



### ■ 情報モラルセミナー風景。



富田林市教育委員会でのセミナー風景（令和6年7月23日）



鹿児島市教育委員会でのセミナー風景（令和6年8月22日）



教育DX推進フォーラムの様子（令和7年2月27日）



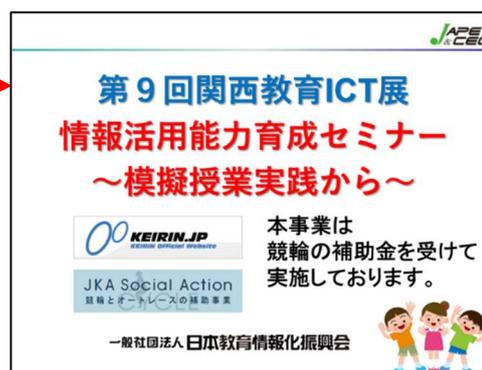
滋賀県3市（長浜市、米原市、彦根市）合同セミナーの様子（令和7年3月26日）

### ③ 情報活用能力（コミュニケーション力）育成のための事業

<https://www.japet.or.jp/info-ut-ability/>

2020年度から全面実施された小学校学習指導要領では、情報活用能力が言語能力に並ぶ「学習の基盤となる資質・能力」と位置付けられている。また、中央教育審議会（2016）幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）において、「情報活用能力とは、世の中の様々な事象を情報とその結び付きとして捉えて把握し、情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用して、問題を発見・解決したり自分の考えを形成したりしていくために必要な資質・能力のこと」としている。そして、情報活用能力の重要性が最初に指摘されてから、すでに30年以上経過しているが、教員の認知度は決して高いとはいえない状況である。

そのために、これからの「情報活用能力（コミュニケーション力）育成」を、学習活動の中にもどのように取り込んでいくかを紹介するセミナーを企画し、全国で実施した。今年度は、全国7地域（大阪、北海道、岡山、東京、宮城、富山、那覇）で模擬授業形式およびパネルディスカッション形式のセミナーを開催した。



関西教育ICT展内セミナー（インテックス大阪）の様子（令和6年7月25日）



JAFT東京都港区大会内ワークショップ（港区立赤坂中学校）の様子（令和6年10月28日）

## 2 予想される事業実施効果

昨今のスマートフォンやのゲーム機、音楽プレイヤー等の普及、また国の「GIGAスクール構想」による児童生徒1人1台のPCの普及により、いつでもどこでもインターネットを利用できる環境が、学校現場にも急速に拡大した。この急激な変化により、児童・生徒がSNSや無料ゲームなどのコミュニティサイトで犯罪などに巻き込まれる事例も発生している。また、ネット上で子供達同士が誹謗中傷の発信を行うなど、コミュニケーション不足からのいじめが行われ、実際に痛ましい事件も発生している。

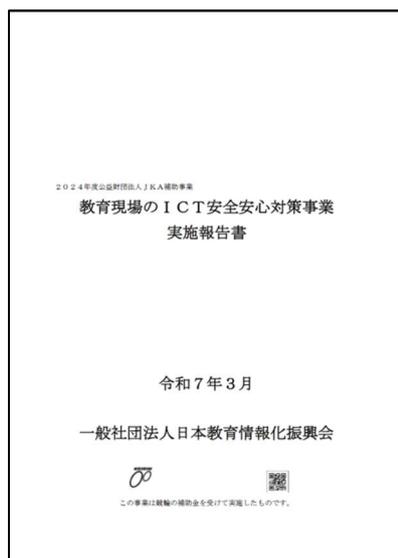
日本教育情報化振興会では、児童・生徒の安全安心を願い「教育現場のICT安全・安心対策事業」を展開している、この活動は広く公開されているため、教育界だけではなく、保護者への啓発としても有効であり、地域、家庭での安心安全への意識を高めることができる。

## 3 補助事業に係る成果物

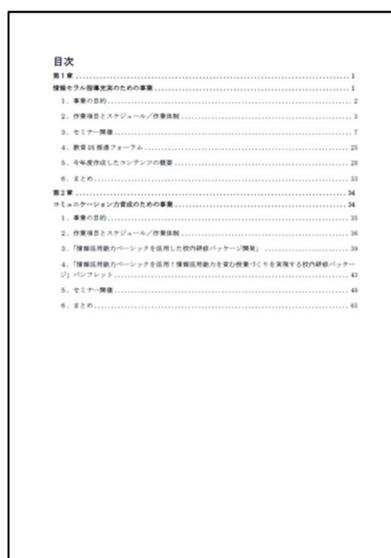
### (1) 補助事業により作成したもの

#### ①教育現場のICT安全安心対策事業実施報告書

<https://www.japet.or.jp/activities/info-ut-ability-dev/>



表紙



目次

SDGs、地球環境保護の観点から、冊子での配布をやめ、WebサイトでのPDFデータ提供に変更した。全国の自治体に対しての案内として、当会の会報送付時（令和7年春号）に「教育現場のICT安全安心対策事業実施報告書」PDFのQRコードを同封して広報活動を実施した。

## ② ネット社会の歩き方情報モラル教材

2024年度新規開発した教材概要は次の通り

<https://www.japet.or.jp/net-walk/anime/index.html>

### ●新規学習ユニット10テーマ

#### (1) 新規学習ユニット 10 テーマ+改変 3 テーマ

アニメーションで様々な事象を確認しながら、情報モラルについて学習できるようになっている。

##### ① 信頼できる人だったのに

<校種> 小中高

<教科>

学級活動

<学習内容>

SNSなどを通じて性的な目的を隠して子どもに近づき、信頼関係を築いた上で性的な行為をしようとすることを、「性的グルーミング」と言う。そのような被害に遭わないようにどうすれば良いのかを考える。



##### ② 電子メールってどう書くの？

<校種> 小中

<教科>

総合的な学習の時間、特別活動

<学習内容>

工場見学の依頼からお礼を例に電子メールを出すときの基本的なルールについて考えていく。



##### ③ クラウドの落とし穴

<校種> 小中高

<教科>

技術・家庭科、情報科、学級活動、道徳、総合的な学習の時間

<学習内容>

学習でのクラウド利用が日常的になりつつある。クラウドの特性を知り、安心安全な使い方について学ぶ。



④ その情報、本当に大丈夫？

<校種> 小中・保護者

<教科>

社会科、学級活動、技術・家庭科（技術分野）、  
総合的な学習の時間、各教科等

<学習内容>

災害発生時に、誤った情報やデマに翻弄されずに情報を正しく判断する方法について考えていく。



⑤ 好奇心を刺激する情報に注意！

<校種> 中高

<教科>

社会、公民、学級活動、総合的な学習の時間

<学習内容>

「好奇心を刺激するような情報」の問題点とその情報との向き合い方について考える。



⑥ 多数決って万能？

<校種> 小中高

<教科>

特別活動・総合

<学習内容>

物事を決める時は、少数意見も尊重し、譲り合いながら話し合っていくことの大切さについて考える。



⑦ 著作物のフェアユース（公正な利用）

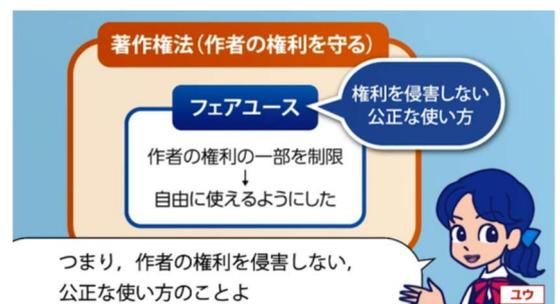
<校種> 小中高

<教科>

ホームルーム，図工，美術，音楽，国語，道徳，総合的な学習（探究）の時間，情報

<学習内容>

著作権法は作者の権利を守るものですが、作者の権利を侵害しない公正な使い方を決めたフェアユースというルールについて考えていく。



⑧ 「使い捨て」にされる闇バイトの罠

<校種> 中高

<教科>

学級活動, 総合的な学習の時間

<学習内容>

若年層の闇バイトへの関連のニュースが後を絶たない。闇バイトや犯罪募集から抜け出せなくなってしまうように、どのように見分けるポイントがあるのかを考える。



⑨ ポイ活って稼げるの？

<校種> 中高

<教科>

学級活動

<学習内容>

ポイ活には、気軽にポイントが稼げると

いうメリットがある反面、さまざまな問題点もあります。ポイ活を始める場合に注意することについて考えていきます。



⑩ 隠れた広告に気を付けて

<校種> 小中高

<教科>

ホームルーム, 道徳, 総合的な(探究的な)学習の時間, 家庭科, 社会科, 情報科

<学習内容>

偽公式サイトに騙されて、商品を購入してしまわないようにする方法を一緒に調べ、考えていく。



<改変3テーマ>

⑪ マナーモード?それとも電源オフ?

<校種> 中高

<教科>

技術家庭・家庭

<学習内容>

携帯電話の基本的なマナーを知る。



⑫ ケータイのコミュニティは慎重に

<校種> 中

<教科>

技術家庭

<学習内容>

携帯電話では、URLが表示されない、リンクをたどるうちに、別のサイトに移動したことに築かない、サイトを確認することが大事なことを知る。



⑬ 書き込みはリアル?

<校種> 中高

<教科>

技術家庭・情報

<学習内容>

毎日のリアルへの書き込みから、個人情報特定されることがあることを知る。



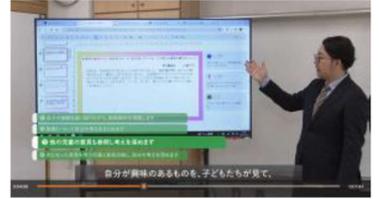
●授業実践動画

アニメーション動画を使った授業実践例について  
動画を2本作成。※実際の授業風景動画

① 小学校高学年編

<使用教材>

「生成AIって万能?」「AIが生み出すニセ情報」を使用した  
授業展開事例



② 中学・高校編

<使用教材>

「うまい話は危険!闇バイトの罠」を使用した  
授業展開事例



●教材カタログ

「ネット社会の歩き方」の各教材を紹介するために総合カタログを作成。  
本カタログにより、広く教材の認知度を上げ、学校での活用につなげる。



### ③情報活用能力育成のための指導資料の作成

2024年度新規開発した校内研修パッケージ概要は次の通り

<https://www.japet.or.jp/info-ut-ability/>

#### ●「情報活用能力ベーシックを活用！情報活用能力を育む授業づくりを実現する校内研修パッケージ」

2020年度に、学習プロセスに情報活用能力を位置づけた指導指標である「情報活用能力ベーシック（小学校）」を開発し、2021年度は「情報活用能力ベーシック（小学校）」を活用した「情報活用能力を育む授業づくりガイドブック（小学校編）」を制作した。2022年度は「情報活用能力を育む授業づくりガイドブック（中学校編）」を制作した。

2023年度は、情報活用能力ベーシックを活用した実践事例を、単元という形でまとめ、学校現場の先生方に、より授業の実践内容が伝わるように製作した。

そして2024年度は、「情報活用能力ベーシックを活用した校内研修パッケージ」を開発し、その紹介パンフレットを制作した。

以下5つのツールをこれまでに整備することができた。

- (1) 情報活用能力ベーシックのこれまで
- (2) 広がる情報活用能力ベーシックの活用
- (3) 実践事例の歩き方～事例の見方・使い方
- (4) 小学校実践事例6事例、中学校実践事例3事例
- (5) 「情報活用能力ベーシックを活用した校内研修パッケージ」



## (1) 校内研修発働パッケージの構成 1

学習指導要領において、**情報活用能力は学習の基盤となる資質・能力と位置づけ**られました。そして高速大容量のネットワークに接続した1人1台端末、クラウドベースのアプリや学習者用デジタル教科書等のデジタル学習基盤を活用した学習者中心の授業づくりが広く求められています。



しかしながら、学習者中心の学びに不可欠といえる情報活用能力の育成のための取組は、まだまだ十分とはいえません。具体的な授業づくりについてイメージすることが難しいという学校現場からの声をたびたび耳にします。このような状況において、私たちの研究グループでは情報活用能力ベーシックを開発し、全国各地で情報活用能力ベーシックの知見に基づいたワークショップ型研修を実施してきました。

そしてこのたび情報活用能力を育む授業づくりの実現をより一層支援するために、**校内研修を想定した教員研修パッケージを開発**しました。ぜひ多くの学校現場で活用されることを願っており、これからの授業づくりの参考にお役にください。

### 校内研修パッケージの構成

#### 研修の手引き <情報活用能力育成研修の手引き>

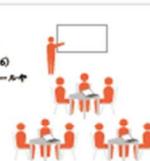
研修を実施する際の研修の目的、研修の展開、グループ編成や準備物、スライド資料における留意点などを示した手引き書

#### ■ 研修の流れ（展開）

順番	活動内容	プロセス	時間
1	本研修の目的を確認する（研修担当者からの説明）	課題の設定	5分
2	情報活用能力ベーシックを知る（研修用ビデオ1の視聴）	情報の収集	15分
3	授業の動画を視聴する（研修用ビデオ2の視聴）	情報の収集	5分
4	授業からの学びを明らかにする（対話）	整理・分析	10分
5	自分の授業への活用を考える（対話）	まとめ・表現	10分
6	研修全体を振り返る（対話）	振り返り・改善	10分

#### ■ グループ編成や準備物など

- グループ編成
  - ・3～4人で1チームを編成
  - ・グループで対話できるように向き合せて配置
- 情報端末の準備
  - ・参加者は1人1台の情報端末を所持
  - ・投影装置の準備
  - ・教室に大型モニタやスクリーンなどの投影装置の設置
- 音声環境の整備
  - ・PCの音声やタブレットに聞こえるように準備
- 授業支援ツールの活用（プロセス4、5、6）
  - ・意見の共有を円滑にするための授業支援ツールやアプリの活用



#### ■ 解説付きのスライド資料

4. 授業からの学びを明らかにする（整理・分析）  
ビデオ2の授業の良かった点や学びになった点を、対話によって明らかにしてください。情報端末を使って共有することも効果的です。前回の研修の振り返りシートとして次のようなことを考えてみましょう。

- ・この授業での情報とは何なのか
- ・5つのプロセスがどう具体化されていたか
- ・効果の発揮はかどうだったか



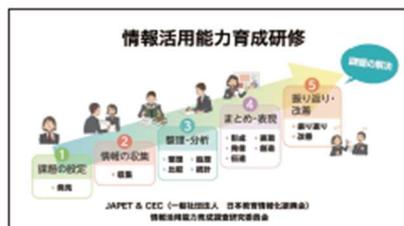
（4）授業からの学びを明らかにする（10分）  
ビデオ2の良かった点や学びになった点を対話によって明らかにしていきます。情報端末を使って共有するのも効果的です。考える視点として次のことを提示するとよいでしょう。

- ・この授業での情報とは何なのか
- ・5つのプロセスがどう具体化されていたか

## (2) 校内研修発ページの構成 2

### スライド資料

- 大型提示装置に提示するための資料
- 可変して使用できるように PDF ファイルの他、PowerPoint、Keynote 対応のファイルも用意



情報活用能力ベーシックの  
5つの学習過程について説明するスライド

### 6、研修全体を振り返る（振り返り・改善）

この研修で自分が学んだことは何か（内容知）、  
自分たちの学び方はどうだったのか（方法知）  
といったことを対話によって明らかにしてください。  
また、同じグループのメンバーの  
発言や態度から学んだことも言語化  
してみてください。他者からの学び  
も重要なポイントです。



振り返り・改善

研修の最後に使用する「振り返り」のスライド

### 研修で使用する動画資料 ※今後、動画資料は追加される予定

- 情報活用能力や情報活用能力ベーシックに関する解説動画
- 情報活用能力の育成を意識した授業の動画資料
  - ・ 研修ではショートバージョンを使用
  - ・ 研修時間に余裕がある場合にはロングバージョンを使用することも可能

※JAPET&CEC サイトにて、ダウンロードできます。



委員の郡司専任教諭による授業の様子

### ダウンロード版校内研修パッケージのご案内

校内研修等の利用に限り、すべて無料でダウンロード可能です。

<https://www.japet.or.jp/inf-ut-ability-dev/training-package/>



(3) 既刊 授業づくりに役立つ資料

既刊 授業づくりに役立つ資料

情報活用能力ベーシック (小学校)



小学校の授業を対象にして、基本となる探究の学習過程に情報活用能力を位置づけた「情報活用能力ベーシック」を紹介。学習指導要領に示された各教科の特徴をふまえて国語から特別活動までの13の教科・領域における展開例や情報活用能力ベーシックの活用例を掲載しています。

情報活用能力を育む授業づくりガイドブック (小学校編)



「情報活用能力ベーシック (小学校)」の内容を発展させ、小学校4教科(国語・社会・算数・理科)を学年別に整理したものも含めています。また学校現場の声を受け、各教科における授業事例を掲載して小学校の授業で活用しやすいものとしてまとめています。

情報活用能力を育む授業づくりガイドブック (中学校編)



学校現場からの声を受け、待望の中学校編を開発。中学校5教科(国語・社会・数学・理科・英語)の情報活用能力ベーシックを示しています。小学校版と同様に授業事例を掲載して中学校の授業で活用しやすいものとしてまとめています。

情報活用能力ベーシックを活用した実践事例集



委員だけではなく学校現場や教育委員会の多くの方の協力を得て「情報活用能力ベーシック」を用いた実践事例(小学校6事例、中学校3事例)を収録。本時の授業に加えて単元デザインを示した事例集であり、授業づくりの詳細を確認できます。

情報活用能力育成調査研究委員会

- |     |       |                                      |
|-----|-------|--------------------------------------|
| 委員長 | 小林 祐記 | 放送大学 准教授                             |
| 委員  | 秋元 大輔 | 船橋市立宮本小学校 校長                         |
| 委員  | 有金 大輔 | 北海道教育大学附属函館中学校 教諭                    |
| 委員  | 稲垣 忠  | 東北学院大学 教授                            |
| 委員  | 岩崎 有朋 | 札幌国際大学 教授                            |
| 委員  | 小内 慶太 | 宮代町立須賀小学校 教諭                         |
| 委員  | 菊地 寛  | 浜松市立大瀬小学校 教諭                         |
| 委員  | 北濱 康裕 | 加賀市立片山津中学校 教諭                        |
| 委員  | 郡司 直孝 | 学校法人桐蔭学園中等教育学校 専任教諭                  |
| 委員  | 佐藤 幸江 | 放送大学 客員教授                            |
| 委員  | 佐和 伸明 | 千葉県柏市立大津ヶ丘第一小学校 校長                   |
| 委員  | 田中 聖  | 東京都新宿区立市谷小学校                         |
| 委員  | 中川 一史 | 放送大学学盟 / 放送大学<br>次世代教育研究開発センター長 / 教授 |
| 委員  | 前田 康裕 | 熊本大学大学院 特任教授                         |
| 委員  | 渡辺 拓也 | 船橋市立若松小学校 教諭                         |

新刊 情報活用能力ベーシック活用ガイドブック

本書は、4部構成になっている。まず「序論」では、これからの授業のあり方について、情報活用能力、さらには本書の核である「情報活用能力ベーシック」について解説している。「実践編」では、各教科等について、具体的な実践の流れを示している。「普及編」では、教員、学校、自治体にスポットを当てその取り組みについて示している。最後に「研修編」では、模擬授業を含んだワークショップ研修やワークショップの意義と効果について解説している。



発行

一般社団法人 日本教育情報化振興会(JAPET&CEC)

〒105-0001 東京都港区虎ノ門2丁目10番1号

虎ノ門ツインビルディング東棟1階

Tel 03(5575)5365 Fax 03(5575)5366

<https://www.japet.or.jp/>

発行日 2025年3月25日

## ●ビデオ制作

「情報活用能力ベーシック」を活用した小学校と中学校の授業実践を撮影し、動画コンテンツとしてまとめた。

全国の多くの先生方に、この実践授業を分かりやすくご視聴いただけるように、各3種類の動画を制作した。

### 1) 小学校模擬授業

小学校第6学年 道徳

「銀のしょく台（「レ・ミゼラブル」より）」

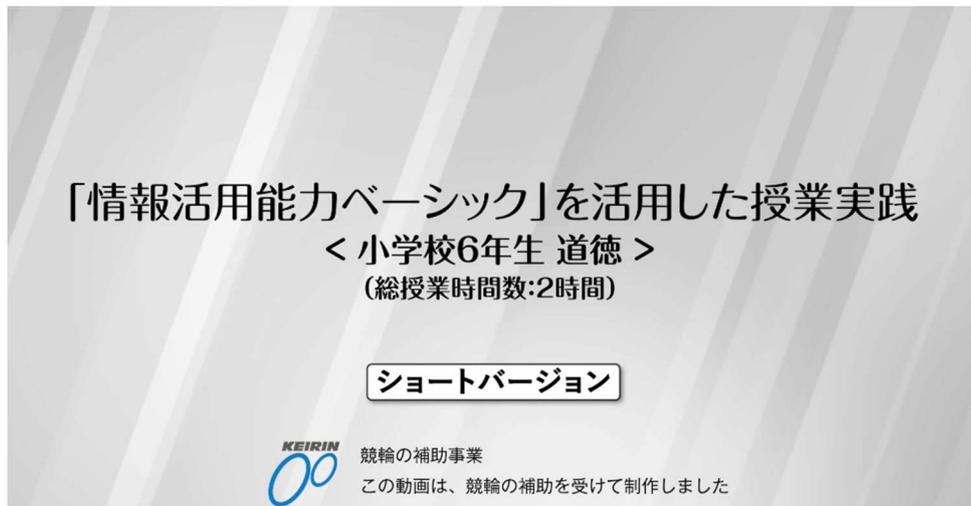
#### ① ショートバージョン

45分の実践授業の概要がわかるように全体をまとめたもの

#### ② 詳細バージョン

45分の実践授業を2分割し、先生方に視聴したい部分をわかりやすくまとめたもの

#### ③ 授業指導者と授業実践者のインタビュー



## 2) 中学校模擬授業

中等教育学校2年（中学校第2学年） 探究科

### ① ショートバージョン

50分の実践授業の概要がわかるように全体をまとめたもの

### ② 詳細バージョン

50分の実践授業の流れや生徒の様子がわかるようにまとめたもの

### ③ 授業指導者と授業実践者のインタビュー

# 「情報活用能力ベーシック」を活用した授業実践 ＜ 中学校2年生 総合的な学習の時間 ＞ 単元名「青葉区探究」 (総授業時間数:35時間 本時:27時間目)

## ショートバージョン



競輪の補助事業

この動画は、競輪の補助を受けて制作しました



- (2) (1) 以外で当事業において作成したもの  
特になし

4 事業内容についての問い合わせ先

団 体 名 : 一般社団法人日本教育情報化振興会  
(イッパンシャダンホウジンニホンキョウイクジョウホウカシンコウカイ)

住 所 : 〒105-0001(半角)  
東京都港区虎ノ門2-10-1 虎ノ門ツインビルディング 1階

代 表 者 : 会長 山西 潤一 (ヤマニシ ジュンイチ)

担当部署 : 調査・研究開発部 (チョウサケンキュウカイハツブ)

担当者名 : プロジェクト担当部長 乃一 志保 (ノイチ シホ)

電話番号 : 03-5575-5365(半角)

F A X : 03-5575-5366(半角)

E-mail : noichi@japet.or.jp

U R L : <https://www.japet.or.jp/>